いのちと地域を守る

震災直後のみなと保育園

屋上に避難 園児守る

震災発生後、津波はみなと保育園の敷地まで迫った。職員らはどうさの判断で屋上に退避するなどの安全策を取り、園児を守った。

地震は、子どもたちのた。職員は、落下物で園昼寝の時間に起きた。大児がけがをしないように揺れが長い時間続い急いで毛布をかぶせた。

直後に保護者の携帯が駆けつけてきた。漁業関係者で、すぐ近くの浜にいたらしい。「津波が来る」と言い残し、きょうだいを両脇に抱えて去った。その後、園児の帰り支度を整えているうちに、保護者がやってきて子どもを連れ帰った。

テレビが大津波警報を伝えていた。園児と職員一方で、まだ40人が残っていた。

近くで民宿を営む住民が、園児を搬送しようとバスを持ってきてくれたが、和田信義園長(57)は「車では間に合わない恐れがある。少しでも高さを確保するため、屋上に上ろう」と決めた。

間もなく、園の門の手前まで津波が来た。屋上に上る階段はなかった。急きょ脚立を垂直に伸ばして屋上に立て掛け、はしご代わりにした。

0歳児、1歳児は職員がおぶった。2歳児以上は男力で上らせ、屋上にいた職員が身を乗り出して手を伸ばし、次々と引き上げた。脚立は不安定で、がくがく揺れた。

テレビが大津波警報を伝えていた。園児と職員一方で、まだ40人が残っていた。

近くで民宿を営む住民が、園児を搬送しようとバスを持ってきてくれたが、和田信義園長(57)は「車では間に合わない恐れがある。少しでも高さを確保するため、屋上に上ろう」と決めた。

間もなく、園の門の手前まで津波が来た。屋上に上る階段はなかった。急きょ脚立を垂直に伸ばして屋上に立て掛け、はしご代わりにした。

0歳児、1歳児は職員がおぶった。2歳児以上は男力で上らせ、屋上にいた職員が身を乗り出して手を伸ばし、次々と引き上げた。脚立は不安定で、がくがく揺れた。

下にマットを敷いて転落に備えた。

「大人でも怖かったのに、園児たちは黙々と上った。本当に頑張ったと思う」と職員の平間美由貴さん(27)。当時を思い出し、涙ぐむ。

園児や職員、近隣住民を合わせて約400人が屋上に逃げた。職員は園児におやつを食べさせたり、ミルクを飲ませたりした。おまるや毛布も屋上に運んだ。

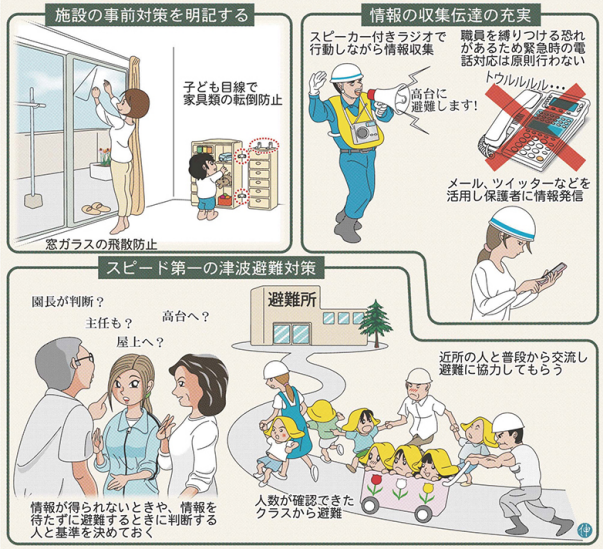
波の勢いが一段落した頃、園児が保護者の元に帰ったのは翌朝だった。

副主任保育士の斎藤貴紀子さん(49)は「緊迫した空気を感じ取っていたのか、園児は泣きだしたり、騒いだりせずに職員の指示に従った。園児を守れたのは、日頃の訓練の成果だと振り返った。

たのが当日深夜。最後の園児が保護者の元に帰ったのは翌朝だった。

副主任保育士の斎藤貴紀子さん(49)は「緊迫した空気を感じ取っていたのか、園児は泣きだしたり、騒いだりせずに職員の指示に従った。園児を守れたのは、日頃の訓練の成果だと振り返った。

災害発生時対応マニュアルを見直そう



■むすび塾に参加して――相馬市・みなと保育園

【避難訓練のアイデア】避難場所の公民館が満員の場合や、ブロック塀の倒壊などでルートが寸断された場合に備えて、あらかじめ第2、第3の避難場所、避難ルートを考えておきたい。

＝みなと保育園主任保育士・三宅恵子さん(55)

【震災発生当時の証言】近くの宿泊施設のバスが津波に流され、電信柱にぶつかったのが見えた。屋上に避難して良かった。とっさの判断の重みを痛感した。

＝みなと保育園副主任保育士・斎藤貴紀子さん(49)

【非常時の不安】震災発生当時は学生で愛知県にいた。被災体験がないため、園児を安全に誘導できるか心配だ。いつも本番だと思って訓練に臨んでいる。

＝みなと保育園児童指導員・和田信貴さん(24)

【震災発生当時の証言】最後の園児を全員起こして園庭に避難させた。歩くのもままならない揺れでったが、わりとスムーズに避難できたと思う。日頃の訓練が役立った。

＝相馬保育園園長・和田信智さん(28)

【震災発生当時の証言】大きな地震で動揺したが、「園児を守らなくては」と思って行動した。棚から落ちる本などは行なかったが、園児を部屋の中央に集めた後、園庭に避難した。

＝相馬保育園主任保育士・滝沢智子さん(55)

減災・復興支援機構理事長　木村　拓郎さん

事前にできる対策 済ませて

東日本大震災の教訓を生かすため、河北新報社は地域住民らと一緒に地震・津波に備える災回ワークショップ「むすび塾」を開いています。名称には、地域の人、人人のつながりを強め、防災・減災に結び付けていきたいとの思いを込めました。次回の「むすび塾」は21日、東松島市の大曲小学区子ども会育成会で開催します。

減災・復興支援機構理事長　木村　拓郎さん

園内や避難場所になっている公民館までのルートを確認しただけで、倒れて通路をふさぎそうな遊具のロッカーなどは、よけておいたほうがいい。

揺れている最中に、大勢の園児の面倒を見るのは難しい。窓ガラスに飛散防止フィルムを貼るなど、事前にできる対策は済ませておく必要がある。

地震が収まった後は意外とやることが多い。外部からの電話対応に殺される事態を防ぐため、基本的に保護者からの電話には応じないことを伝えておくべきだ。

津波避難はスピードが大事になる。園長が不在の場合は、誰が避難開始を判断するのか、雪や強風などの場合、避難に必要な時間はどのくらいなのか、考えておきたい。

避難時は、園児をおんぶしないことを勧める。落下物から、園児を守るのが難しいからだ。

抜き打ちでの避難訓練にも取り組んでほしい。季節や時間帯など条件を変えると効果的だ。図上避難演習で、地震が来たらどうするかシミュレーションする方法もある。

今度は参加するメンバーを変えて、話し合いをしてみてはどうだろう。園のマニュアルが、ただ充実するはずだ。